

運動方針（案）

立党 60 年、戦後 70 年を迎えて

組織広報委員長 梶原 大介

■「統一地方選挙に勝利し、来たる参議院議員選挙必勝に向けた組織づくり」

本年は、高知県知事選挙、県議会議員選挙、7の市町村長選挙、16の市町村議会議員選挙が行われ、多くの同志が激戦に挑んでいる。「地方こそ、成長の主役。」を旗印に、「地方創生」などの主要政策を、有権者に向けてわかりやすく提示し、あらゆる手段と地道な運動を積み重ね、各級選挙に勝ち抜いていく。厳しい戦いとなる来年の参議院通常選挙高知県選挙区勝利のための地歩を固める。

■「1小選挙区 4,000 名党员獲得運動」いよいよ本年末が期限

昨年の党大会にて、これまでにない党员拡大策「国会議員・選挙区支部長は 1,000 名を目標数とし、地域・職域支部らと連携して 1 小選挙区 4,000 名党员を目標とした党员獲得運動推進要綱」を強力に展開することが決定され、県連大会においても運動方針として承認された。

これは、2か年計画で、本年末を期限としている。

達成者にはインセンティブ（党役員人事、比例代表名簿の登載順位決定での考慮・判断材料とする）を与える一方、未達成者は一定の責任（不足数に 2,000 円を乗じた金額を県連に納めるなど）を課するとしている。

期限となる今年、その目標達成に向けて、衆参国会議員が旗振り役となり、県議会議員をはじめ、各級議員、支部長らと連携し、各支部での具体的で地域の特性にあった党员獲得計画を策定し、1 小選挙区 4,000 名の党员獲得に努めていく。

■「地域に根ざす、地道な組織活動」

統一地方選前半戦の県議会議員選挙において、青年部局世代（30～40 歳代）

議員は9名となった。KOCHI自民党政経塾の修了生も当選した。本年も、政経塾、各種団体との交流、地域イベントへのボランティア活動、数年ぶりとなる「学生部」の設置、研修会等を通じて、次代を担う有為な人材の発掘と自己研鑽を、青年部局党員が中心になり努めていく。

7月1日に運用開始となる「189番」、児童相談所全国共通電話番号の普及など、女性局による社会的活動も実施していく。

本年も部総会の開催を活発化させていく。昨年是一部の地域支部で総会が開催されておらず、該当支部役員に開催を促していく。

昨年度、恒例の歯科医師連盟とのデンタルミーティングに、薬剤師連盟、医師連盟の皆様にも参加頂いた。本年も、看護連盟をはじめ、職域支部や各種友好団体との意見交換会等を政調会と連携して行いたく、関係各位の皆様には開催のご協力をお願いしたい。

また、県議会議員による地域訪問、現地視察を例年以上に増やし、直面する「人口急減・超高齢化」という危機に立ち向かう為、各地域独自の魅力を持つ「地域資源」の発掘をはじめ、課題へ対応する諸策の実現にスピード感をもって取り組む。

■「インターネット選挙運動の取組み」

平成25年の参院選における共同通信社の出口調査によると、投票にあたってネット情報を参考にしたと回答した率が10.2%だった。別の調査ではあるが、街頭演説5.7%、連呼0.8%、電話による勧誘0.8%との回答がある。高知県内には、必ずしもこの数値が当てはまらない選挙結果もあるが、ネット選挙運動の効果をあなどれない調査結果である。

ネット選挙解禁後の初の統一地方選での活用実績を精査し、18歳選挙権の時代にも対応したSNSの有効・最適活用すべく、改善に本年も努めていきたい。

■「広報活動としてのネット活用を拡充」

マスコミに取り上げられることが非常に少ない地方議会議員の日常活動を、どのよ

うに有権者へ伝えていけるのかといった大きな課題にも、ひとつの解決策として、SNSをはじめ、ネットの有効な活用術を試みていきたい。

党本部とも連携し、急激に普及がひろがるスマートフォン媒体対策を、県連サイト、ウェブ活用方法の見直しを含め、「伝わる」、「手軽さ」を念頭に、研究、活用を行う。

■「立党 60 年、戦後 70 年」

本年、立党 60 年を迎えました。また、戦後 70 年という節目の一年でもあります。次ページに、3月8日、東京で開催されました第 82 回自民党大会で示された運動方針の前文を掲載いたしました。

前 文

本年、わが党は立党60年を迎える。

終戦という未曾有の国難から10年目の昭和30年、内外に多くの困難が山積する中、わが党は産声を上げた。

爾来60年、先人の命がけの奮闘と、多くの国民のたゆまぬ努力とがあいまって、わが国は国際社会への復帰を経て、世界に誇れる平和国家としての地歩を築くとともに、戦後経済復興を成し遂げ、世界有数の経済大国として国民生活の安定と向上を実現してきた。

それは、とりもなおさず、責任政党としての重さに耐えながらの決断と実行の歴史でもあった。

今、立党60年の節目を迎え、我々が改めて胸に刻まねばならないのは、日本の文化・伝統・国柄に立脚し憲法改正を党是として出発した保守政党としての矜持ではないだろうか。

暦は一巡し、わが党は今、新たな未来の扉の前に立っている。我々は新しい一步を踏み出さねばならない。

まずは、経済再生。長年苦しんできたデフレから脱却し、経済が安定成長軌道に乗らなければ、財政再建も、社会保障の充実も、外交政策もままならない。

アベノミクスを完遂し、その果実を全国津々浦々にまで届けねばならない。同時に、岩盤規制に穴をあけ、本来の日本経済のもつ潜在力を花開かせていくこともせねばならない。とりわけ、地方の持つ可能性をどう引き出していくか。地方創生は、日本創生でもある。

わが党は、日本および日本人の可能性を強く信じている。今までも、そして

これからも。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックには、世界中の人々が日本にやってくる。

振り返れば、1964年のオリンピックに向かう日本は、戦後よみがえったその姿を世界の人々に見せようと、国を挙げて熱気の中にあった。東京タワー、新幹線、首都高速、高級ホテル群など、東京大会を契機に多くの夢が実現した。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックは、現在の日本人の新たな夢でもある。あの時と同じように、見事に復活した日本を世界の人々の目に焼き付けようではないか。

未曾有の震災・原発事故から立ち直った日本。経済再生と財政再建を両立させた日本。生き活きとした地域社会を有する日本。女性が活躍している日本。世界最高水準の教育を取り戻している日本。高齢者も安心できる社会保障制度を有する日本。エネルギーや食糧の安定供給を確保している日本。環境先進国日本。自由で、民主的で、自主独立の気概を持つ人々からなる日本。

わが党は、2020年という節目の年に思いをいたしながら、国民とともにさらなる歩みを進めていく。立党60年は、その決意を新たにする年でもある。

また、本年は戦後70年の節目でもある。

これまでも、わが党運動方針で謳ってきたが、改めて靖国神社参拝を受け継ぎ、国の礎となられた英霊の御霊に心からの感謝と哀悼の誠をささげ、不戦の誓いと恒久平和の決意を新たにしたい。

わが党は、安倍内閣が掲げる「地球儀を俯瞰する外交」を支援し、世界の平和と安定に貢献していくとともに、切れ目のない安全保障法制の速やかな整備に力を注いでいかねばならない。1月に発生したシリアにおける邦人拘束事案は内外に衝撃を与えた。わが党は、この卑劣極まりないテロ行為を断固非難し、国際社会と連携してテロ対策の強化、海外での邦人保護に全力を尽くしていく

決意である。

足元を見れば、4月には統一地方選挙が待ち構えている。2年前の衆議院総選挙で政権に復帰し、参議院通常選挙で衆議院と参議院のねじれを解消した。今度の統一地方選挙はわが党が政策実現政党としての足場を完成する極めて重要な選挙である。

地方議員はわが党の宝である。地方立脚はわが党の原点でもある。「地方こそ、成長の主役。」を旗標に、統一地方選挙に総力戦で挑み、勝利をものにし、立党60年にふさわしい新たな扉を開こうではないか。新しい明日のために。

以上、第82回自由民主党大会於